

グループ討議 課題

テーマ:リポジトリ業務における研究者と図書館での役割分担の明確化

グループ名 [4C]

2018年度機関リポジトリ新任担当者研修

JPCOAR オープンアクセスリポジトリ推進協会



【背景】

大学をはじめとした研究機関が、研究成果や発行物などのオープンアクセス化のために構築している機関リポジトリに関する作業は多岐にわたる。各コンテンツに付与するメタデータの編集や学术论文などの著作権の確認、処理、さらに登録可能なコンテンツの収集などである。

また、紀要論文やオープンアクセス化が義務付けられた博士論文などは、提出される期間が集中する傾向にあり、業務を圧迫している。

- コンテンツ収集
- メタデータ編集
- 著作権許諾確認処理
etc...



機関リポジトリ業務は、その他の業務と兼任で図書館員が行っている場合が多く、業務全体における作業時間の短縮や機関リポジトリの質の向上のためにコンテンツの登録作業を効率化することが必要であると考えられる。



リポジトリ業務



図書館業務

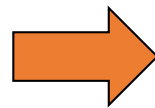
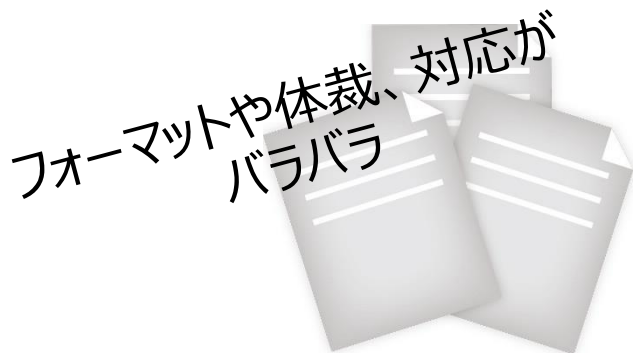


様々な業務を兼務

【課題】

機関リポジトリへの登録は、研究者や教員が作成したファイルを元に図書館員などの担当者がメタデータなどの情報を付与し、登録を行っている。しかし、提出されるファイルの体裁などが統一されていない状態が多い。そのため再提出のお願いやファイル加工などの煩雑な作業が多く発生し作業効率を悪化させている。

- 提出されるファイルのフォーマットや体裁が統一されていない
- 研究者側と図書館員側においての作業の重複や不足による余計な作業の発生
- ファイルの加工に手間がかかり作業量が多い
- 登録コンテンツの選択が研究者によって異なり対応が複雑化



ファイルの加工や重複した作業の発生や個別対応による複雑化により作業効率が悪化



【解決策】

- ✓ 紀要論文や博士論文、科研費報告書などの定期的に登録するコンテンツに関しては、あらかじめ提出するフォーマットを決定し対応する
- ✓ 各機関に合わせた役割分担をルール化し、研究者・図書館員などそれぞれの担当に周知する
- ✓ 作業マニュアルを作成し、作業のルーチン化と業務の引き継ぎを円滑にする



フォーマット、対応の統一

役割分担のルール化



業務のルーチン化と引き継ぎ

【効果】

- ファイルの加工などの煩雑な作業の減少が期待でき、コンテンツの収集・広報活動など他の業務の時間が確保できる
- 研究者、図書館員ともに作業の明確化により対応が容易となり、業務にともなう負担の減少が期待できる
- 担当者の交代に際し、スムーズな業務移行が行える
- あらたに機関リポジトリを構築するケースにおいても、研究者側と登録者側の役割が明確化されていることにより作業における混乱の回避が期待できる

